

提出日：令和 2年 12月 5 日
所 属 生命・環境科 学部 臨床検査技術 学科
氏 名：岩橋和彦 職位：教授
役 職：健康管理センター長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）																																		
<table border="1"><thead><tr><th>科目名</th><th>学科・専攻</th><th>必, 選, 自</th><th>配当年次</th><th>受講者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>生理学 I,II</td><td>臨床検査技術学科</td><td>必修</td><td>1年</td><td>約 90</td></tr><tr><td>生理学実習</td><td>臨床検査技術学科</td><td>必修</td><td>2年</td><td>約 90</td></tr><tr><td>臨床生理学 I,II</td><td>臨床検査技術学科</td><td>必修</td><td>3年</td><td>約 90</td></tr><tr><td>臨床生理学実習</td><td>臨床検査技術学科</td><td>必修</td><td>3年</td><td>約 90</td></tr><tr><td>卒論指導</td><td>臨床検査技術学科</td><td>選択</td><td>2-4年</td><td>約 20</td></tr></tbody></table>					科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数	生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	1年	約 90	生理学実習	臨床検査技術学科	必修	2年	約 90	臨床生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	3年	約 90	臨床生理学実習	臨床検査技術学科	必修	3年	約 90	卒論指導	臨床検査技術学科	選択	2-4年	約 20
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数																														
生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	1年	約 90																														
生理学実習	臨床検査技術学科	必修	2年	約 90																														
臨床生理学 I,II	臨床検査技術学科	必修	3年	約 90																														
臨床生理学実習	臨床検査技術学科	必修	3年	約 90																														
卒論指導	臨床検査技術学科	選択	2-4年	約 20																														
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）																																		
自分で学び自分で人生を切り開く努力ができる学生を伸ばす。個々の才能をつぶさない。																																		
学生が自分から興味をもって医学、医科学を学べるような授業を行うため、資料も日進月歩の医学の進歩に遅れない内容のものを、学会などで情報を仕入れて刷新していく。教科書に載っている内容のみならず、ICTで最新の情報を仕入れ、学生に分かりやすく教える。興味を持った学生は自主的にさらに広範囲で高いレベルでの知識探求、思考力の開発に努めるよう指導していく。こうして、自分から積極的に学ぶ姿勢を持った学生を指導していき、学生には確固不拔の医学への探求精神を涵養していきたいと思う。できれば大学院にも進学して、研究もでき、医学を包括的に学ぼうとする学生を望む。将来人の役・社会の役に立つ医療従事者を育てることで、できれば自分の陰徳も積みたい。																																		
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）																																		
単に教科書レベルの学習のみならず、自ら進んで専門書などやインターネットでの情報も含めて、幅広く学んでいける学生を育成したいと考える。																																		
そのため、日進月歩の医学の進歩についていき、かつ学生の探求心をくすぐるような事業内容にしたいと考えている。																																		
そのため、毎年学会や講演会などに出席し、様々な情報を採集し、それをわかりやすく学生にも教えている。																																		
また、臨床検査技師は、特にエコー検査（超音波検査）などの画像については、「医師の診断を助けるばかりか、主役的な立場になってきている（医師はほとんどエコーなどは取れない場合がある）。従って、エコー検査などの画像診断に関してはチーム医療のリーダー的な存在にならねば、今後臨床検査技師の存在価値はないと思われる。																																		
麻布大学においては将来的にエコー検査や遺伝子検査など、臨床検査技師がイニシアテイ																																		

ブをとるべき分野に関して、他大学に先たち重点的に教育すると思に、人間性豊かな、患者さんに配慮できる医療従事者を育てるため、心理学も導入してコミュニケーション力をつける教育も行っている。

大学院では院生の研究意欲を高揚し、自由な発想で論文を作成するよう努めた。

アクティブラーニングについての取組

できる限り機会があれば学んでいく

また、最新の医学情報を学生に提供するため、講義実習に生かすためにも医師・産業医としての研修も積極的に学びたい。そして研究にも生かしたい。

ICTの教育への活用

学理を使い、時代の最先端の技術になるべく遅れないように努力している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

① 教育（授業、実習）の創意工夫（A～C） B

② 学生の理解度の把握（A～C） A

③ 学生の自学自習を促すための工夫（A～C） A

④ 学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A～C） B

⑤ 双方向授業への工夫（A～C） B

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑤ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験の勉強はとにかく大量の知識を詰め込まなければ突破できないという方針で学生に取り組むよう指導している。

1日8時間以上勉強すること；時には痔ができるくらい毎日長時間勉強する必要があると口酸っぱく指導している。

従って、学生には4年生で総合臨床検査学演習というところで、繰り返し過去の標準的な難易度の良問をじっくり解かせて、同時に関連キーワードも一緒にまとめて覚えさせている。

臨床検査技術学科では毎年、各科目の試験範囲の要点をまとめた「マズコレ」という冊子を学生に早期に配り、それを暗記させながら、先ほど述べたように、過去の良問を解きながらそれに関連する項目をキーワードごとにまとめさせ、マズコレに書き込んだり、表にまとめたものを追加で張り付けさせて利している。

学内及び、業者の模擬試験を積極的に受けさせて、問題になれるように勧めている。

学内の総合臨床検査学の単位は国家試験受験の必修科目としているので、これで総合臨床検査学の学内模試に合格点が取れなければ、受験させない方針を学科でとっている。

最終的には追再試（俗にいう一発勝負）に通らなければ完全に国家試験の受験資格を失うの

<p>で、学生には余裕をもって国家試験に通るよう促している。</p> <p>なお、学内の模擬試験で成績の悪い学生には居残りで大学に残って勉強することを義務付けている。</p>
<p>5.学生授業評価</p>
<p>① <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u>：学生の評価を謙虚に聞いて改善している</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。</u>：今のところ大した批判もなくやっている</p> <p>③ <u>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u>今まで通り謙虚に学生の要望に耳を傾けて行う</p>
<p>6.学生の学修成果</p>
<p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u>：</p> <p>臨床検査技師の臨床現場の状況を動画などで見せて臨場感を感じてもらいながら学習意欲を上げていきたい。生命・環境科学部 臨床検査技術学科において、最終的には国家試験の合格率を 100%に近づけたいので、お手本となる将来のビジョンを機会があるごとに話をし、講義・補修で学生のモチベーションを維持するように努めている。</p> <p>② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価：</p> <p>生命・環境科学部 臨床検査技術学科の講義については今のところ批評はない。</p> <p>卒論の指導した学生は、3年続けて古泉賞を受賞し、その学生は大学院に進学して研究にいそしんでくれている。</p> <p>これまでに大学院環境保健学研究科の博士前期課程に進学した学生はいずれも、在籍中に修士論文を仕上げそれをもとにしてしかるべき学会誌に投稿を果たしており、受理もされている。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）：</p> <p>実習などで支障がない限り、できる限りそのような機会には出て知見を高めたいと考える。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p> <p>短期的には今年度から国家試験の合格率を 1%でもあげる。自分から医学に興味をもって学んでいく学生を一人でも多く育てたい。</p> <p>長期的には麻布大学臨床検査技術学科卒の技師長や主任を特に関東一円で、あるいは日本国内に増やしたい。それにより、先輩が麻布大学の後輩を就職活動などの機会に引っ張ってくれば学生の就職率も維持できる。</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ</p> <p>TP チャート</p>